

2023年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(憲 法)

第1問 (配点：50点)

合憲限定解釈とはなにか、その限界を具体例を挙げて明らかにしつつ、説明しなさい。
また、その解釈方法の利点と問題点について、具体例を挙げながら論じなさい。

第2問 (配点：50点)

次の(設例)を読んで、請求①・請求②は憲法上どのように評価されるべきか、あなたの見解を述べなさい。

(設例)

Xは、有名なジャーナリストであり、テレビ番組の司会者を務めたり、雑誌等のインタビュー記事や自らの著書において政治や社会に関する発言を公にしたりしている。

Yは株式会社であり、自社が開設し運営している「Aテレビ」と題するウェブサイトにて著名人のゴシップ情報を発信している。

Yは、インターネット上の匿名掲示板で流布されていた噂を収集して、Xが過去に大学への裏口入学をしていた旨を伝える動画を「Aテレビ」にアップロードした。同動画の再生回数は100万回を超えている。しかし、Xの裏口入学は事実無根であった。

Xは、SNSにてYの動画は事実無根であると反論を行った。その後、Xは、Yに対し、①人格権に基づき上記動画の削除を求める(「請求①」という。)とともに、②民法723条に基づき「X氏の名誉を毀損したことを深くお詫び致します。」旨の謝罪文を含む謝罪広告の上記ウェブサイトへの掲載を求めて(「請求②」という。)訴えを提起した。